



目どりの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

住民同士のコミュニケーションを大切に 第六団地区自主防災・防犯組織の会

第六団地では、10月8日を独自に防災の日と定め、防災訓練を行っている。

そのことについて第六団地区自主防災・防犯組織の会の栗原会長は「8年前、第六団地内で火災が発生しましたが、火災の発生は夜中だったので、消防車所の人たちが協力して、消防車が到着する前に効果ある初期消火ができました。しかし、いつ何時にこの様な事態になっても対処できるように、また、過去に火災があったことを忘れないように10月8日を防災の日と定め、皆さんで訓練をしています」と言う。

第六団地の防災訓練は、実に実践的である。毎年、疑似の火災発生場所を定めて、情報の伝達から始め、ホース4本の連結や態勢作り、時には実際に水を出しての訓練も行っている。

また、第六団地では、住民同士のコミュニケーションを、とても大切にしているという。「皆さ

んで月に2・3回、団地内外のパトロールを行っているのですが、終わった後、その日の反省会として集会所などで、お茶を飲んだり、おしゃべりをする時間をとっています。それが楽しみで参加してくれる人もいますのでよ」と栗原会長は語ってくれた。

第六団地では、普段からの付き合いを大切にすることで、団地内の結束を高め、万一の時も連携して対応できる地域づくりを行っている。



毎年10月8日に行われる防災訓練の様子

流鏝馬歴史祭 第247回 流鏝馬を盛り上げる大きな幟 ～長瀬の旗立て～

今年も11月3日に伝統の流鏝馬祭りが行われました。流鏝馬は本番を迎えるまでの間、その年流鏝馬の奉納を担当する地区や、11月1日から祭りの拠点となる的宿(本陣)で様々な行事が行われています。

普段静かな佇まいの出雲伊波比神社境内を祭りの雰囲気に変させるのは、参道に立てられる大きな幟旗でしょう。幟旗は神様が訪れたことを表す飾りで、その天辺に神様が降りたための「依代」の意味がある櫛の葉が付けられています。

では、この幟は、いつ誰によって立てられているのでしょうか。

参道脇の石製の幟柱には、「大正八年二月竣工 宇内静謐(世

の中が穏やかであるように)」、「禾穀豊穰(穀類が実り豊かであるように) 長瀬 池田 前組 中組 後組氏子」と刻まれています。この「旗立て」は、95年を経た現在でも長瀬一区、二区の輪番の氏子たちが行っています。氏子たちは、11月2日のまだ薄暗い早朝5時ごろから集まり、旗を立てます。

幟旗は「鎮守 御祭礼 明治二十三年十月 海舟勝安芳」と「鎮守 御祭礼 長瀬氏子中」の一対からなり、幕末から明治維新に活躍した勝海舟が、長瀬氏子中の求めに応じて書いたとされています。現在使用されている幟は複製で、原資料は町の指定文化財に指定されています。

騎射が中心の流鏝馬ですが、様々な人が関わりながら舞台が整えられていることが、秋空に翻る大きな幟旗からもよく判ります。



出雲伊波比神社
の勝海舟幟旗